

東大病院にて食道がんのご加療をされ、 耳鼻科で嚥下造影検査をされた方へ

当院では食道がん切除術後の嚥下障害（飲み込みの障害）に関する研究を行っております。この研究は、食道がん切除術後の嚥下障害の特徴を明らかにすることを目的としています。この研究の結果は、今後、術後の嚥下障害に対して、適切なリハビリテーションプログラムを作成するための資料となります。

【研究課題】

食道がん切除術後に生じる嚥下障害の病態解明

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学医学部附属病院 リハビリテーション部

研究責任者 リハビリテーション部 言語聴覚士 兼岡麻子

担当業務 データ収集・匿名化・データ解析

【共同研究機関】

研究機関 該当なし

【研究期間】

2017年4月1日～2022年3月31日

【対象となる方】

2017年4月1日～2021年3月31日に、当院胃食道外科で胸部食道がんに対して食道切除術を受け、手術の前後に当院耳鼻咽喉科で嚥下造影検査を受けた方で、耳鼻咽喉科にて、診療で得た既存の情報を医療者が研究に利用することに同意しておられる方。

【研究の意義】

食道がんに対する手術治療の後遺症の一つに嚥下障害があります。嚥下障害になると口から食べることができないために栄養状態が悪化したり、食物や飲料が誤って気道へ侵入する（誤嚥）ことで肺炎のリスクが高まります。現時点では、手術によって嚥下機能がどのように障害されるのかは不明です。私たちは、術後の嚥下障害の特徴を調べることで、その特徴に合わせた適切なリハビリテーションプログラムを作成できるのではないかと考えています。

【研究の目的】

胸部食道がんに対する食道切除術後に生じる嚥下障害の病態について、患者さんの嚥下造影検査の動画を詳しく調べ、その特徴を分析します。

【研究の方法】

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学医学部附属病院長の

許可を受けて実施するものです。これまでの診療でカルテに記録されている手術や食事などの情報や、嚥下造影検査の動画記録などのデータを収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

あなたの情報・データ等は、解析する前に氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、当部において兼岡麻子が、パスワードロックをかけたパソコンで厳重に保管します。ただし、必要な場合には、当部においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行い、結果をあなたにお知らせすることもできます。

この研究のためにご自分（あるいはご家族）のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、2022年3月31日までに下記までご連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で、学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医または下記までお尋ねください。

この研究に関する費用は、平成30年度文科科研費若手研究（プロジェクト番号:187100000546）から支出されています。本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。尚、あなたへの謝金はございません。

2018年10月20日

【問い合わせ先】

東京大学医学部附属病院 言語聴覚士 兼岡麻子

住所：東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-5800-8680（内線 34265） FAX：03-5800-8680

Eメールでのお問い合わせ：kaneokaa-reh@h.u-tokyo.ac.jp